

メルボルン大学の James Hurley 教授 (内科) のグループが、菌血症とエンドトキシン血症に関する世界中の臨床研究データを分析し、過去 40 年間に於けるメタアナリシスの成績を J Clin Microbiol. 2015; 53(4):1183-91 に公表しました。同教授による従前のレビュー[J Clin Microbiol. 1995; 33(5):1278-82, 1995 (RE:当該血症と転帰)]に続く臨床的に貴重な報告ですが、グラム陰性菌感染例以外のエンドトキシン血症陽性例、両者間の不一致例が顕著です。使用した LAL 試薬 (カプトガニ血球抽出成分より調製されたライセート試薬) の感度と測定法 (ゲル化法/合成基質法) について言及しているものの、肝心のリムルス試薬の特異性や血液前処理法等に関しては何ら考慮されておらず、とくに欧米の報告においては今後とも注意が必要です。